

年頭所感



柳原 優登

令和2年、新年あけましておめでとうございます。
今年は、7月下旬から9月上旬まで東京オリンピック、
パラリンピックが開催される特別な年です。

（「ウポポイ（民族共生象徴空間）」4月24日公開）

また、白老町ポロト湖畔では、アイヌ文化への理解と多民族の共生を基本理念とするナショナルセンターとして「ウポポイ」が、一般公開予定です。世界中の方々に訪れていただきたいものです。なお、愛称の「ウポポイ」は、アイヌ語で「(大勢で) 歌うこと」を意味し、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設等で構成されています。



因みに、当所第7代所長伊福部宗夫(弟の昭はゴジラのテーマの作曲家)は、「沙流アイヌの熊祭」を執筆しています。現所長は第41代です。

（SDGs 持続可能な開発目標）

さて、多少古い話題で恐縮ですが、特に新聞等の記事や広告でよく見かけるSDGs経営を話題にしたいと思います。2030年を年限とする17の目標、169のターゲット、232の指標が定められ、単なるスローガンではなく、取組結果が明らかになるものです。例えばGDPにおける開発研究への支出という指標もあります。

背景・経緯としては、①2006年国連がESG（環境・社会・ガバナンス）重視の投資方針を示し、②2010年11月CSR（企業の社会的責任）はISO26000国際標準化され、本業外ではなく本業としての取組が基本となり、③2011年1月ハーバード大のポーター教授がCSV（Creative Shared Value）を提唱、経済価値と社会価値の同時実現を目指す（共通価値の創造）…

という背景の中で、④2015年9月国連文書「2030年アジェンダ」にSDGsが盛り込まれ、⑤12月にはパリ協定合意、⑥同時期に運用額約160兆円のGPIF（年金積立金管理運用独立法人）がESG投資方針を表明…

これらを踏まえ、企業としても困難な社会課題に素直で、かつ戦略的に取り組めるSDGsに「乗った」というところでしょうか。なお、日本企業のいわゆる「三方よし」に「発信性」と「継続性」の視点も必要とい

う指摘は大切なことと思います。

さらに、SDGsの取組は、昨今の貧富の格差拡大から、資本主義の限界を認識して、ポスト資本主義に向けて動き出したという見方、既に潮流ではなく世界のルール、という捉え方もあるようです。

ルールとはいっても、SDGs自体には審査機関もないですし、柔軟に考えてもいいのかなと思うイベントがありました。

昨年8月のSDGsテーマのフォーラムにて中高校生のプレゼンで「17の目標だけでは楽しくない! 文化芸術がないのはつまらない!」。これからの時代を担う、若者の自由で自然な発想は羨ましくもあります。これは勝手ながら脳波によるのではと…。

（脳波）

脳波をコントロールする研究者の小説を契機に検索してみると、脳波β波は通常業務、α波は安静開眼、θ波は閃き瞑想、δ波は睡眠というイメージ。

中学生はθ波状態になりやすく、成人はθ波が優勢になることは通常ないですが、成人も好きなことに夢中になることが契機となってθ波優勢になり、閃きの可能性があるとのこと。科学の進歩はθ波優勢の閃きの蓄積なのかもしれません。

（今年の取組）

今年の中長期計画期間6年の5年目。成果取りまとめに入るとともに、次期計画策定に取りかかります。SDGsの扱いは議論を待つべきですが、少なくとも実装化に向けた技術にはSDGsの該当する目標を示すと、企業や自治体は採用し易くなるのかもと思います。

日本の2018年SDGs指標達成率は世界15位です。自国だけの達成のみを目的にするのではなく、東南アジアなど、課題が山積する国や地域に役立つ研究も、何らかの形で視野に入れるべきと考えます。

持続可能ではないということは持続不可能、破滅という緊張感も必要と思います。とはいえ、研究で煮詰まった際には、「ウポポイ」し、好きなことに熱中し、θ波優勢にコントロールして閃きが導かれるよう、職場環境づくりにアフターファイブも含めて努めます。

今年も何とぞよろしくお願ひいたします。